

平成30年度 臨時放送番組審議会 議事録

会 議 名	平成30年度 臨時 放送番組審議会
日 時	平成30年9月14日(金) 17:55 ～ 19:05
場 所	竹原商工会議所 小会議室
出 席 者	委 員 会 : 宮原委員長・有田委員・柄崎委員・北丸委員・國兼委員 用田委員・吉近委員・和久利委員 タ ネット : 近藤取締役・中野取締役・吉原制作部統括責任者 《撮影 加藤》 事 務 局 : 岡取締役・三國 以上 14名

内 容

冒頭、近藤取締役より挨拶があった。

宮原委員長より以下の挨拶に続いて議事へ進行した。

- ・ 今まで比較的災害が少なかった瀬戸内が大きな被害をうけた。
 今回の災害時におけるタネットの報道のあり方について意見を聞かせてほしい。

議 事

1) 審議テーマ 災害時における報道のあり方について

制作部統括責任者 吉原より放送分VTRを放映後、災害発生時から時系列で放送内容の説明。

その後、審議委員より以下の意見や感想が出された。

- ・ タネット加入者で放送を見ていた人に話を聞いたところ、下記の感想があった。
 - ・ 市内の状況、被災手続き、お風呂、給水等の情報がよくわかった。
 - ・ 加入者が放送を見て情報伝達をしていたが、タネットの必要性を感じたのではないか。
 - ・ 今までは観光PR的な放送が多かったが、迫ってきた災害のことを必死に伝えようとしていた。制作が変わったような気がする。
- ・ 自宅に居れば一日2回新しい情報が入り、情報収集としては良かった。
 しかし、本当に必要としている人にはテレビを見る余裕がなく届いていなかったのではないか。
 また、加入していない人に伝えるためにはどうしたら良いのかと思い放送を見ていた。
- ・ 道路の復旧状況については、竹原市のホームページも密着した形でわかり易い地図だったが、市よりもタネットからの情報が早かったのが助かった。
 Facebook等の更新もリアルタイムでやっていたので助かったが、その反面、情報があり過ぎてどれが新しい情報なのか判断に戸惑った。
- ・ スマホでも見ていた情報が、皆さんにわかり易く地域に密着した表現に作り代えて放送されていたのでどの情報もわかり易かった。
- ・ 自宅に帰ってから、民放では自分に直結した身近な情報量が少ない為、タネットを見て給水場所等の情報を収集することが出来た。
- ・ タネットを見て市役所での手続き等の情報を知ることが出来た。
- ・ 災害に遭っていない方の意見だが、初めての災害報道としては上出来だったのではないか。
- ・ タネットのFacebookで情報を入手することが出来て助かったのが、皆さんに使い方を教えてあげた方が良いのではないか。
- ・ 早く情報を知るという手段として下記の意見があった。
 - ・ 行政は、危険地区を自治会ごとに知らせて行くべきである。
 - ・ 駅前は、過去の経験から一時間に50ミリという雨が降ったら水害になるとわかったので、対策としてポンプを2倍にした。それでも、テレビを見ると、50ミリを基準にしている。

タネットの情報としては、一時間にいくらという雨量を早く知りたい。

- ・ 交通網等の情報は、facebook等でスマホや携帯電話にリアルタイムに情報発信してほしい。
- ・ 取材をしたいが出来ない時、リアルタイムな情報収集の仕方として、地区ごとに情報を提供してくれる人がいれば、スマホや携帯電話で情報を集めることが出来る。
- ・ 被災後落ち着いたときに、ゴミの出し方、断水になった時にいつ復旧するのか等、そのリアルタイムな情報が行政から全く出てこない。市民目線で情報を流して欲しかった。
決まった時点で発表されるが中途半端な情報であり、かなりストレスがたまった。
- ・ 今回の災害で、タネットのインターネットがダウンしていたが、いつ頃復旧するのか、セーフティネットがあれば助かる。
⇒ 当時、携帯電話会社もつながり難かった中で対応だったが、当社のインターネットルートは2つ組んでおり、今回は同時に切れてしまった。
- ・ 市民は情報を欲しがっており、竹原市が対策本部を立ち上げたのなら本部からの中継など出来なかったのか。又、市長から市民へのメッセージなど放送出来なかったのか。
⇒ 市に取材依頼をしたが、内部を映すのは不可、市長からのコメントはホームページに文面を掲載しているのでそれを見て欲しいとのことだった。
市長が忙しいのであれば、副市長、総務部長、防災の担当の方でも良いので市民へ呼びかけをして欲しかった。
- ・ 情報基盤整備をした時も、災害時の情報を流すということだったが、行政自身ももっとタネットを活用すべき。
⇒ 今回の情報は、竹原市から出て来なかった為、タネットが動いて入手したものである。
情報を出す竹原市の体制が万全とはいえない為、今後、市と話し検討していく必要がある。
- ・ タネットが独自で情報を集めようと思ったら、間違った情報も入るかもしれない為、情報の正確さを精査する必要があるのではないか。
⇒ その為には、窓口を市へ一元化して情報が集まる仕組みを作るように再三再四お願いしているが、現状は竹原市からの情報は入らず、自分達の手でカメラを持って現場の取材をし放送をした。
⇒ 情報収集の段階で困ったことは、対策本部が設置されたということで情報入手の連絡をするが「詳しくわからない。各担当課に聞いてくれ。」と何度か言われた経緯があった。
- ・ 今後は、観光客が激減しているので、明るい情報も発信して行きたい。

中野取締役より挨拶後、委員会を終了した。

以上